

## 豪華客船を海から間近で見よう！～みなと見学会を開催～

5月14日、徳島小松島港赤石地区に、大型クルーズ船MSCスプレディダ（パナマ船籍、約14万ト、乗員乗客約4,600人）が初寄港し、これに合わせて「みなと見学会」を開催しました。

参加者は、普段見ることができない海上からの景色や、全長333m、海面からの高さは約60mもある迫力満点のMSCスプレディダを間近に見ながら、カメラを片手に楽しんでおられました。また、乗船場所に展示した事務所の事業概要を紹介するパネルを熱心に見ていた方も大勢いらっしゃいました。

みなと見学会は、地域のイベントやクルーズ船寄港時等に合わせて開催しております。事務所ホームページにて事前に開催案内を掲載しておりますので是非ご覧ください。



夢中になって撮影する参加者の方々



船内では若手職員が徳島小松島港の魅力をわかりやすく説明



赤石地区はココ！

GeoEye-1©2016 DigitalGlobe, Inc.  
画像提供：日本スペースイメージング

## 徳島小松島港の来し方行く末を考える～議論もいよいよ大詰め～

当事務所では、徳島県、小松島市とともに、「徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会」を設置し、徳島小松島港の将来像について、学識経験者、港湾関連団体、行政が一体となって検討を進めております。

2040年頃を目標とした長期イメージから、バックカスティング手法にて、2030年頃までの施設整備や小松島港区活性化プラン等の中期構想の策定に向けて議論を続けて来ました。

徳島小松島港は、四国で唯一となる首都圏を結ぶフェリー航路や阪神港を結ぶ国際フィーダー航路、国際コンテナ航路等を有し、四国の経済、産業にとって重要な港湾となっています。また、港湾背後地の高速道路の整備、新たな企業誘致が促進される一方で、港湾施設の老朽化・陳腐化等の課題も顕在化してきており、徳島小松島港を取り巻く状況は大きく変化して来ています。

このような中、昨年度2回の委員会を開催し、委員の皆様より徳島小松島港の抱える課題や長期的な将来像についてご意見を伺いました。

令和元年6月11日には第三回委員会を開催し、これまでの議論を踏まえ、中期構想（素案）および小松島港区活性化プラン（案）の提案を行いました。

9月には最終の第四回委員会を予定しており、徳島小松島港中期構想（案）および小松島港区活性化プラン（案）の取りまとめを行います。



第三回委員会の様子



委員会後、海上視察会を行いました。